

第2学年1組 図画工作科学学習指導案

日 時 平成29年8月1日(火) 9:45~10:30
場 所 図工室
対 象 2年1組35名(男子17名,女子18名)
指導者 高添 比登美

本授業の主張点

児童が主体的に鑑賞活動に取り組めるように、言葉かけや場の工夫を行います。状況によって変わる形や色を楽しんで見ながら、作品のよさや面白さを感じ取る児童の姿をお見せします。

1 題材名 いろ・イロ・いろ 水花(みずはな) [立体に表す]

2 題材の構想

(1) 題材について

本題材は、物語から想像した花を、自分の思いやイメージに合わせて、形づくっていく題材である。主な材料に、ポリエステルフィルムやカラーホルダーを用いる。ポリエステルフィルムは、薄くて折ることができ、カラーホルダーは、厚みがあり、適度な強度がある材料である。両者とも水を浸透させない性質をもち、切断や接着が容易で、しならせて形状を保つことができる。色が豊富にあり、透明なものと、光沢のある不透明なものがある。児童は、イメージに合わせて、ポリエステルフィルムやカラーホルダーの色を選んで切ったり、透明な容器に接着させたりしながら、形づくることができるであろう。接着には、主にセロハンテープを使う。セロハンテープは、水にぬれると接着しにくいですが、乾いていれば、接着しやすく、児童も扱い慣れている道具である。すぐに形状を保たせ、水に浮かべる点から、ステープラーも用意しておく。児童がイメージしたものを完成に近付けるために、補助材として、様々な色のモールや手芸材料等を準備する。題材を通して、イメージしたものや表したい思いに向かって、ポリエステルフィルムやカラーホルダーの特徴を感じ取り、使い慣れた用具を使うとともに、表し方を工夫し、立体的に形や色を構成する力の育成をねらう。また、自分や友達の作品を楽しんで見ながら、感じたことを話したり、友達の話を聞いたりする活動は、形や色などについてのコミュニケーションを通して、生活や社会と主体的に関わる態度につながっていくと考える。

(2) 児童について

本学級の児童は、細い厚紙や色の付いたホログラム折り紙をはさみで切り、セロハンテープやステープラーで接着・接合する工作活動の経験がある。また、題材の終末で互いの作品を見合ったり、一つの作品の形や色について、見て話し合ったりする鑑賞活動も経験している。児童は、図画工作の授業を毎回楽しみにしており、「とっても楽しい」「夢中になれる」などと高い意欲で取り組むことができている。しかし、はさみやセロハンテープなどの身近で扱いやすい用具は使えているものの、ステープラーは、力の入れ方や持ち方が分からず、うまく扱えない児童もいる。鑑賞については、形や色、表し方の面白さ、材料の感じなどについて、具体的に言葉で表せていない児童もいる。「思い付かない」と発想の段階でつまづいたり、「思い付いたことをうまく表せない」など用具をうまく扱えず、表し方が分からなかったりして困っている姿が見られる。本題材を通して、形や色のイメージを広げたり、材料や用具に十分に慣れたりしながら、自分のイメージしたことや感じ取ったことを表すことができるようになると期待している。

(3) 指導について

第1時では、児童のイメージが広がり、豊かな発想につながるような題材の導入を行いたい。そのため、本題材に合わせた教師の自作の物語である「キセキの花」の読み聞かせを電子黒板で行う。また、物

語を読む前に、教師がつくった「キセキの花」の種を児童に提示する。「キセキの花」の種が旅に出て、いろいろな困難を乗り越え、最後に水面に花を咲かせようとする場面で話を終える。読み聞かせを終えた後、児童の想像が膨らむように、どのような形や色の「キセキの花」が咲いたのか問いかけ、イメージさせる。また、児童の豊かな発想につながるように、珍しい世界の花の写真を電子黒板で提示し、掲示物を用意しておく。児童が材料の特徴を生かして造形活動ができるように、ポリエステルフィルムやカラーホルダーに触れさせ、感触をつかませる時間を設ける。

第2・3時では、児童がイメージに合わせて、材料の色を選び、立体的に形づくっていくことができるような言葉かけや場の工夫を行いたい。そのために、本題材の最後に、つくった「キセキの花」を実際に浮かべることが知らせ、水面に咲く花を想像しながらつくるよう促す。児童の思い描いた花に合う色のポリエステルフィルムやカラーホルダーを選ぶように伝える。児童のイメージに合う「キセキの花」をより具体化し、水に浮かべることができるように、透明な容器を用いる。透明な容器は様々な大きさのものを用意し、児童が作りたい花に合わせて選ぶことができるようにしておく。児童の豊かな発想につながるように、第1時に提示した珍しい世界の花のコーナーを設けておく。また、活動時にステープラーを安全に使えるように、用具の使い方の掲示もしておく。活動時には、形や色にこだわった「キセキの花」をつくるよう促す。児童が安心して活動できるように、失敗しても何度も作り直したり、思い付いた花を何個もつくったりしてもいいことを伝える。造形的なよさや面白さを意識できるように、形や色にこだわってつくっている児童を積極的に称賛していく。活動が停滞している児童には、形や色の新たな組合せを一緒に考え、活動が似ている児童を紹介したり、珍しい世界の花コーナーを参考にしたりするよう促す。終末時に、想像していた「キセキの花」をつくっていく上で、形や色について、どのように工夫したか振り返る。その後、児童が次時の鑑賞活動の見通しをもち、造形活動の期待を高められるように、つくった「キセキの花」を実際に水に浮かべることが知らせ、伝える。

本時では、状況が変わることで生まれる、作品の見え方のよさや面白さに気付かせていきたい。そのために、物語を読み進めながら3段階の鑑賞活動の場を設定する。3段階の鑑賞活動の場とは、自分の作品と向き合う活動の場、次に一斉に作品を水に浮かべて全体の様子を見る活動の場、最後に周囲の明るさを変えて見る活動の場である。その際、水を入れたたらい8つと図工室の中央に大きな布で覆った水を入れたビニールプールを1つ、机上に用意しておく。導入時に、児童が前時の活動を想起し、意欲を高めることができるように、本題材の導入に行った「キセキの花」の読み聞かせを電子黒板で行った後、本時のめあてを提示する。その後、前時までにつくった作品を、水を入れたたらいに実際に浮かべて見ることで、どんな感じがするか問いかけ、作品の様子について、友達と話し合う時間を設ける。その後、物語には続きがあることを知らせ、湖にはたくさんの仲間の種が眠っており、一斉に花が開いたことを口頭で紹介する。図工室の中央に用意していたビニールプールの布を取り、一斉に花を浮かべて作品に浸る時間を設ける。その際、単体で浮かべた様子と一斉に水に浮かべて、たくさんの花が漂う様子見え方のよさや面白さについて見るように促す。終末時に、物語の最後を紹介する。様々な「キセキの花」が咲いた湖に、夜がきたことを話す。その後、図工室を暗くしてビニールプールをライトアップする。周囲が明るさや光の当て方で、作品の見え方が変わることを感じ取らせ、今後の造形活動への意欲を高める。

3 題材の目標と評価規準

(1) 題材の目標

物語を聞いて、感じたり想像したりしたことから、表したいことを見付けたり、形や色などについて考えたりしながら「キセキの花」に表すことができるようにするとともに、「キセキの花」のよさや面白さを感じ取ることができるようにする。

(2) 題材の評価規準

ア【造形への関心・意欲・態度】	イ【発想や構想の能力】	ウ【創造的な技能】	エ【鑑賞の能力】
物語を聞いて、感じたり想像したりしながら、思いのままに立体を表す活動を楽しもうとしている。	ポリエステルフィルムやカラーホルダーの色を選んだり、いろいろな形に加工したりしながら、表したい花を思い付いている。	表したいことを表すために、ポリエステルフィルムやカラーホルダーなどを使いながら表し方を工夫している。	「キセキの花」を見て、感じたことを話したり、簡単な文で書いたりしながら、作品のよさや面白さを感じている。

4 題材の指導計画（全4時間）

時	○主な学習活動	○教師の働きかけ	◆評価規準【観点】
1	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">「キセキの花」のお話を聞いて、どんな花かそうぞうしよう。</div> ○「キセキの花」のお話の読み聞かせを聞く。 ○「キセキの花」を想像する。	○児童がイメージを広げて自由な発想ができるように、物語の読み聞かせを電子黒板で行って、種を提示する。 ○どのような「キセキの花」が咲くのか問いかけ、児童のイメージを広げる。 ○児童の花のイメージが広がるように、珍しい世界の花の画像を見せる。	◆物語を聞いて、感じたり想像したりしながら、思いのままに立体を表す活動を楽しもうとしている。 (活動の様子・発言) 【造形への関心・意欲・態度】
2 ・ 3	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">形や色にこだわって、そうぞうした「キセキの花」をつくろう。</div> ○前時の活動を電子黒板でふり返る。 ○想像した「キセキの花」を、ポリエステルフィルムやカラーホルダー、透明な容器でつくる。 ○本時をふり返り、次時の活動の見通しをもつ。	○本題材の終末時に、つくった「キセキの花」を実際に浮かべることがを知らせ、水面に咲く花を想像しながらつくることを伝える。 ○想像した花に合う材料を選んでつくるように伝える。 ○珍しい世界の花の写真やステープラーの使い方の掲示をしておく。 ○何度もつくり直したり、何個もつくったりしてもいいことを伝える。 ○次時には、実際に作品を水に浮かべることがを伝える。	◆ポリエステルフィルムやカラーホルダーの色を選んだり、いろいろな形に加工したりしながら、表したい花を思い付いている。 (活動の様子・発言・作品) 【発想や構想の能力】 ◆表したいことを表すために、ポリエステルフィルムやカラーホルダーなどを使いながら表し方を工夫している (活動の様子・発言・作品) 【創造的な技能】
4 本 時	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 5px;">「キセキの花」を水に浮かべて、形や色のよさを感じよう。</div> ○物語を聞き、水に浮かべた作品の様子を見る。 ○物語の続きを聞き、一斉に浮かべた作品を見て、友達と話し合う。 ○物語の最後を聞き、ライトアップされた作品を見る。	○水が入ったたらいや布で覆った大きなビニールプールを用意しておく。 ○読み聞かせを電子黒板で再度行う。 ○水に浮かべてどんな感じがするか問いかける。 ○作品の形や色について、友達と話し合う時間を設ける。 ○物語の続きを紹介し、布を取って一斉に作品を浮かべさせる。 ○物語の最後を話し、周囲の明るさなどで作品の見え方が変わることを紹介する。	◆「キセキの花」を見て、感じたことを話したり、簡単な文で書いたりしながら、作品のよさや面白さを感じている。 (活動の様子・発言・ワークシート) 【鑑賞の能力】

